

# 祭礼空間の分析

石田圭太・吉川 眞・田中一成

## Analysis of Festival Space in Osaka

Keita ISHIDA , Shin YOSHIKAWA and Kazunari TANAKA

**Abstract:** There are no cities without proper history. However, it is not easy to feel the history in our daily lifes at present. The temples and shrines where history is reflected in, especially the festival spaces have big attraction for Japanese. In this study, the authors locate and analyse the festival space in the modern space by using the collection of pictures and old maps published in the late Edo period. In addition, the landscape analysis of the festival space is carried out in the modern space.

**Keywords:** 図会 (collection of pictures), 祭礼空間 (festival space), 寺社 (temples and shrines), 変遷 (transition)

### 1. はじめに

近世、江戸・京都・大坂が三都と呼ばれた。江戸は徳川幕府 300 年の本拠地であり、京都は平安京遷都以来、1000 年にわたっての王城の府であった。大坂は、早くから開けた土地として有名であり、交易の中心地となり、「天下の台所」と呼ばれた。商人のまち、商いのまちとして独自の発展を遂げ、三都の 1 つとして数えあげられる都市となった (上田, 1937)。

豊臣秀吉により築かれ始めた大阪城下は、江戸時代に入って何度も開発を繰り返し、まちが活気に満ち溢れていた。防衛機能として、社寺の配置が行われたように、城下はもちろん、街の形成に重要な役割を果たしていたと考えられる。このように寺社は、当時から都市の形成を支える重要な要素として存在していた。また、江戸時代の寺社で行われた祭礼行事は最も華やかであり、当時の

風景を図会や錦絵で描き表現されたものも多い (図- 1)。現代において、かつての歴史の名残を示す祭礼から、当時の姿を現代の都市空間で垣間見られることは魅力のひとつと言える。

今日では「不景気のなか華やかなまつりで街を盛り上げ、商売繁盛につなげたい」という理由などから、廃止になっていた神輿渡御など、迫力のある巡行が地域住民によって復活することも少なくはない。そのような祭礼は、現在注目を浴び、地域を活気付ける観光要素としても大きな役割を担っている。



図- 1 浪花天満祭 (歌川貞秀)

石田圭太 〒535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1

大阪工業大学大学院 工学研究科都市デザイン工学専攻

Phone: 06-6954-4109 (内線 3136)

E-mail: ishida@civil.oit.ac.jp

## 2. 研究の目的と方法

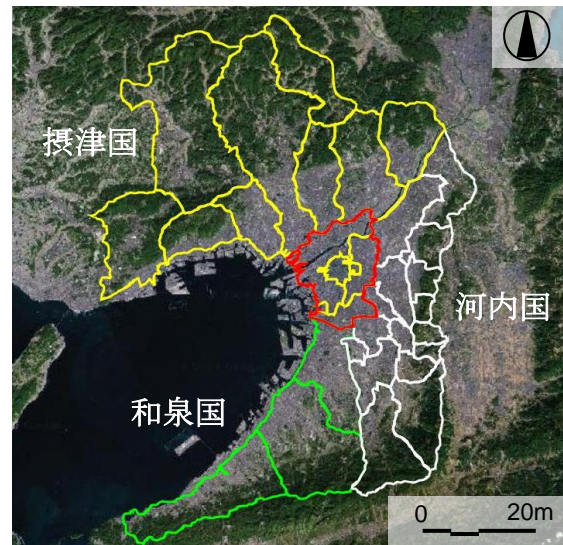
現代では日常生活から歴史を感じることは容易ではない。しかし、歴史性が強く反映されている寺社において、地域の文化が最も顕著に表現される祭礼からは感じる事ができ、現代を生きる私たちにとって、ひとつの活力・魅力となっている。そこで、本研究では、祭礼のなかでも都市空間と密接に関わる渡御祭・神幸祭が祭礼に含まれているものを対象とする。また、過去から継承されてきた祭礼が、現代の都市空間でどのように見えるのか、または祭礼側からは都市空間がどのように見えるのかを分析する。そして、時代の変化と同様に変わってきた都市空間と祭礼が、現代の都市空間の中でどのように人々に映っているのかを把握することを目的としている。

具体的には、空間分析機能に優れた GIS を用いることにより、広域から狭域の分析・把握へと展開する。まず過去から継承されてきた祭礼と都市形成として重要な存在であった当時の寺社を図会から把握する。次に、祭礼と関係の深い寺社の位置情報をポイントデータとして GIS 上に定位し、密度分布として視覚的に表現する。最後に、都市空間と祭礼の関係性を、景観分析を行うことで明らかにする。

## 3. 摂津国・河内国・和泉国

江戸時代の日本は、66の国と2つの島に分けられていた。現在の大阪府は摂津・河内・和泉の旧3ヶ国に含まれており、参勤交代のため街道筋の整備が進み、華やかな大坂のまちを観光地として訪れる人も多かった。

旧3ヶ国の範囲を示すため、本研究室で所有している明治中期二万分一仮製図を幾何補正することで、GIS上に位置情報として定位し、トレースを行い示した(図-2)。また、所有していない範囲は、輯製二十万分一図(清水, 1983)を参考に作成している。



大阪市

図-2 摂津国・河内国・和泉国

## 4. 対象地選定

対象地の選定には、「日本名所風俗図会 10 大阪の巻」(角川, 1980)と、「日本名所風俗図会 11 近畿 I」(角川, 1981)を使用している。なお、これらは江戸時代後期の観光ガイドブックである摂津名所図会・河内名所図会・和泉名所図会を基に復刻版として現代語に収録されている。具体的には、各図会に記載されている寺社と祭礼を網羅的に選び挙げ、整理することで数量的に把握した。摂津国は12の郡と大坂部で構成されており現在の大阪市を含んでいる(表-1)。また和泉国は4の郡(表-2)、河内国は16の郡で構成されている(表-3)。

表-1 摂津国にある社寺・祭礼

大阪市

No.	地域名	寺	神社	祭礼	合計
1	住吉郡	25	14	8	47
2	東成郡	26	8	5	39
3	西成郡	34	20	1	55
4	大坂部	23	16	9	48
5	島下郡	16	23	0	39
6	島上郡	19	18	0	37
7	豊島群	13	12	1	26
8	河辺郡	39	14	0	53
9	武庫郡	14	14	0	28
10	菟原郡	10	7	0	17
11	八部郡	34	20	0	54
12	有馬郡	24	11	0	35
13	能勢郡	14	15	0	29
	合計	291	192	24	507

表-2 和泉国にある社寺・祭礼

No.	地域名	寺	神社	祭礼	合計
1	大鳥郡	58	27	0	85
2	和泉郡	15	15	0	30
3	泉南郡	9	5	0	14
4	日根郡	17	18	1	36
	合計	99	65	1	166

表-3 河内国にある社寺・祭礼

No.	地域名	寺	神社	祭礼	合計
1	錦部郡	12	9	0	21
2	石川郡	41	15	0	56
3	古市郡	10	14	2	26
4	安宿郡	2	2	0	4
5	志紀郡	1	7	0	8
6	丹南郡	5	11	0	16
7	丹北郡	1	7	0	8
8	八上郡	5	4	0	9
9	洪川郡	7	4	0	11
10	若江郡	5	17	1	23
11	大県郡	6	10	0	16
12	高安郡	6	7	0	13
13	河内郡	10	7	1	18
14	譜良郡	5	8	0	13
15	茨田郡	6	7	0	13
16	交野郡	15	10	0	25
	合計	137	139	4	280

現在の大阪市にあたる住吉郡、東成郡、西成郡、大坂部（大坂郷）の地域は、祭礼が最も多く図会で描かれている。これは、当時から大阪市の祭礼が観光要素として必要不可欠な存在であり、魅力のひとつに数えられていたといえる。そこで本研究では、住吉郡・東成郡、西成郡、大坂部（大坂郷）地域を含む現在の大阪市を対象地とする。

## 5. 大阪市の寺社と祭礼

### 5.1 大阪市の寺社の把握

祭礼と関係が深い寺社の把握を対象地である大阪市で行う。そのため、大阪府庁宗教法人名簿（文化庁、2009）に記載されている項目から寺社のデータを抽出した。また、GISの空間分析機能を用いて、カーネル密度分布として表現することで視覚的な把握を行う（図-3）。

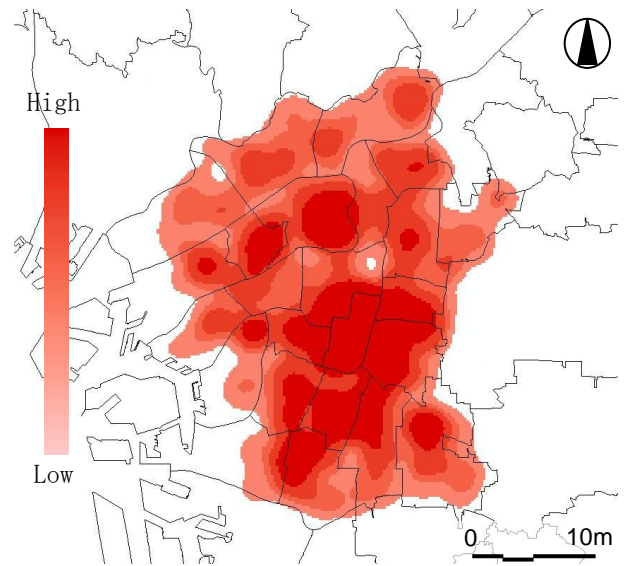


図-3 寺社の密度分布

### 5.2 祭礼寺社の分布

都市空間と祭礼との関係性が顕著に表れる渡御祭・神幸祭を把握する必要がある。渡御祭・神幸祭の目的の多くが悪疫退散であり、神社の祭礼である夏祭りに行われるものが多い。そのため、夏祭りが行われる神社と、夏祭りに渡御祭・神幸祭が含まれている神社をGIS上にプロットすることで把握した（図-4）。

また、旧3ヵ国の各図会に記載されている祭礼のうち、夏祭りに唯一渡御祭・神幸祭が含まれている「大阪天満宮」の天神祭と「住吉大社」の住吉祭を狭域な対象地として扱う。

- 渡御祭・神幸祭が行われる神社
- 渡御祭・神幸祭が行われる神社

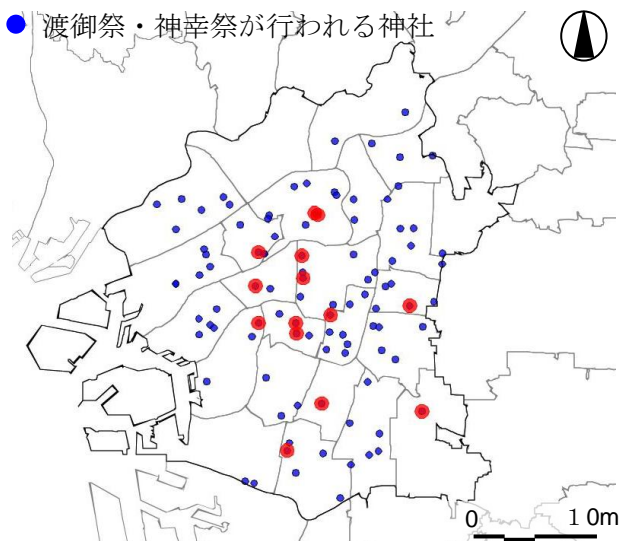


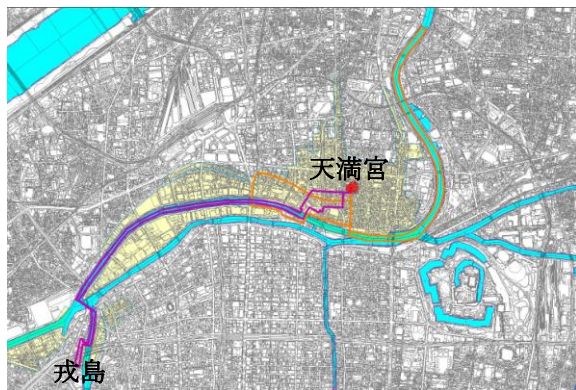
図-4 神社の夏祭り

## 6. 祭礼空間

本研究室では以前から、祭礼空間の分析が行われている（土屋ほか，2009）。

### 6.1 天神祭

元禄 16 年（1703）の地図を用いて江戸期の渡御ルートを設定し、DM データ上で江戸期と現在のルートと比較した。江戸期の渡御ルートは氏子区域の南端である戎島まで渡御するルートであった。その後、地盤沈下の影響から、船が橋桁の下をくぐることができず、昭和 28 年（1953）から氏子区域を大きく外れた現在のルートとなった（図-5）。



天満宮 江戸期 現在

図-5 渡御ルート 江戸期と現在の比較

### 6.2 住吉祭

過去の地形を考慮した地形データと DM データをオーバーレイし、江戸期の住吉大社周辺の地形を示すとともに住吉大社から紀州街道を通り堺市にある宿院頓宮までの神輿渡御祭のルートを示した。江戸期に行われていた神輿渡御祭は、海を横に見ながら巡行していたことが分かる（図-6）。



水面 後背湿地 砂州・砂丘  
氾濫原 台地・段丘 自然堤防  
三角州

図-6 住吉祭・江戸期地形

## 7. おわりに

図会からのアプローチにより江戸時代と現代との繋がりを把握することができた。また、現在の寺社の分布状況は、GIS の空間分析機能を用いることで特徴を見出すことができた。また、時代の変化と同様に変わってきた祭礼の特徴を 2 次元的に把握することができた。

今後の課題として、今回は 3 次元空間での視覚的な分析を行うことができず、2 次元のなかでも平面による分析・把握にとどまった。3 次元空間での視覚的な分析には、景観分析が重要かつ基本となる。そのため、2 次元的な把握だけでなく、3 次元都市モデルの構築や都市空間と祭礼のスケールの違いなど GIS と CAD を統合的に活用し、3 次元分析へと展開していく。

## 参考文献

- 上田長太郎(1937)：「大阪の夏祭」，上方郷土研究轄會。  
角川春樹(1980)：「日本名所風俗図会 10 大阪の巻」，角川書店。  
角川春樹(1981)：「日本名所風俗図会 11 近畿の巻 I」，角川書店。  
清水靖夫(1983)：「幕末・明治 日本国勢地図 初版 輯製二十万分一図 集成」，柏書房。  
土屋正宏・竹中智顕・吉川眞・田中一成(2009)：祭礼行事に見る都市の歴史的空間，土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集，Vol. 2009，PageROMBUNNO. IV-52。  
文化庁(2009)：大阪府庁宗教法人名簿，<http://www.templeinfo.net/temple1/meibo.pdf>。